

小冊子『いま私たちが 職場体験にくる中学生に伝えたいこと』
平成 30 年度「中学生の職場体験受入れ」モニター施設レポート

I 小冊子『いまわたしたちが 職場体験にくる中学生に伝えたいこと』とは

東社協「福祉の魅力可視化プロジェクト」（座長：田園調布学園大学人間福祉学部長 村井祐一氏）では、平成 29 年度に中学生の職場体験を受入れる福祉施設のための小冊子『いま私たちが 職場体験にくる中学生に伝えたいこと』を作成しました。

同冊子には、次のような特徴があります。

小冊子『いまわたしたちが 職場体験にくる中学生に伝えたいこと』の特徴

特徴 1

＜中学生の職場体験を受入れる福祉施設における情報発信を支援＞

28 年度に実施した調査結果「半数以上の福祉施設に中学生が職場体験に来ている」（福祉施設の初任者アンケート）では、福祉職場に関心を持ったきっかけの上位に『職場体験』『ボランティア体験』が挙げられている」ということをふまえている。

特徴 2

＜職場体験に 3 つのステージを設定し、体験の効果を高める＞

「福祉の魅力」が伝わる受入れを行うことができるよう、①受入れ時の「事前学習」（＝体験前のイメージを一度形にする）、②「職場受入れ期間」（＝主体的に魅力を発見してもらう）、③「事後学習」（＝フィードバックを通じて言語化）の 3 つのステージを設定した。

特徴 3

＜中学生としてのキャリア教育の目的に合わせた体験＞

職業発達に必要な能力である「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」のそれぞれについて、具体的に中学生段階で目標とされていることをふまえ、受入れ施設での体験のポイントを整理した。

特徴 4

＜福祉の魅力を伝えるための 6 つの資料例を用意＞

「事前学習」「職場受入れ期間」「事後学習」を通じて実際に活用できるよう、以下の 6 つの資料例を用意した。

- 資料例①：体験前後の中学生の考えを把握し比較する資料
- 資料例②：体験期間中の課題を提示し、関心をもって体験にかかわるための資料
- 資料例③：職員が自分の仕事を言葉で表現する資料
- 資料例④：職員が自分の言葉で仕事の価値観を表現する資料
- 資料例⑤：職場体験の中で見つけた「福祉の魅力」を言語化してもらう資料
- 資料例⑥：職場体験を終えた中学生に「修了証」を渡し体験や気づきを肯定する資料

Ⅱ モニター実施の概要

東社協「福祉の魅力可視化プロジェクト」には、東社協の種別部会のうち、東京都高齢者福祉施設協議会、保育部会、知的発達障害部会の3つの部会から各1名の委員がメンバーに参加しています。同委員を通じて、3つの部会からモニター施設を選んでもらい、モニター施設の皆さんに平成30年9月6日～10月31日の期間に職場体験で施設へ中学生が訪れた場合、小冊子の資料例を実際に活用してもらうことをお願いしました。モニター施設には、資料例①と資料例②を必ず使っていただくとともに、可能な範囲で資料例③～⑥も使ってもらいました。

その結果、13施設で期間中に中学生が訪れて資料例を活用いただきました。

期間中に中学生の受入れ体験があったモニター施設一覧

1	フローラ石神井公園（社会福祉法人 練馬豊成会）	東京都高齢者福祉施設協議会
2	デイサービスセンター はなはた（社会福祉法人 聖風会）	東京都高齢者福祉施設協議会
3	小松原園（社会福祉法人 親和福祉会）	東京都高齢者福祉施設協議会
4	喜多見ホーム（社会福祉法人 南山会）	東京都高齢者福祉施設協議会
5	博水の郷（社会福祉法人 大三島育徳会）	東京都高齢者福祉施設協議会
6	よしの保育園（社会福祉法人 よしの保育園）	保育部会
7	アゼリヤ保育園（社会福祉法人 アゼリヤ会）	保育部会
8	田無保育園（社会福祉法人 大誠会）	保育部会
9	きたしば保育園（社会福祉法人 聡香会）	保育部会
10	大田区立くすのき園（社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会）	知的発達障害部会
11	啓光学園 啓光えがお（社会福祉法人 啓光福祉会）	知的発達障害部会
12	白州いずみの家（社会福祉法人 しあわせ会）	知的発達障害部会
13	さやま園（社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会）	知的発達障害部会

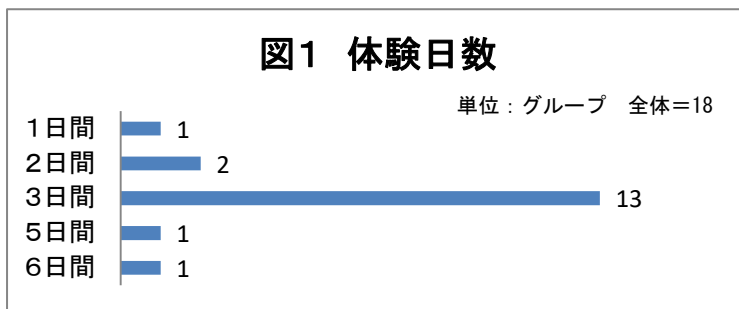
Ⅲ モニター施設レポート

期間中、13施設で18グループ53人の中学生に資料例を使い、福祉の職場の魅力を伝えてみました。

1 職場体験の実施日数等

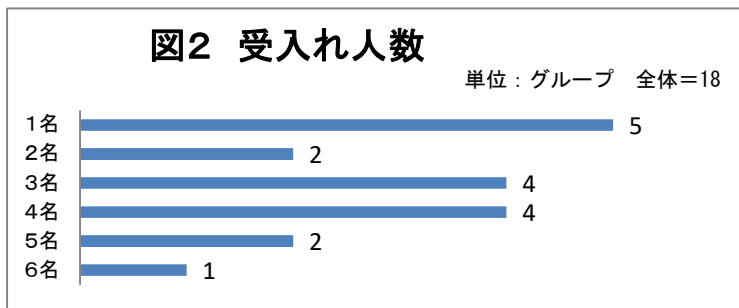
(1) 体験日数

18グループのうち13グループと、ほとんどが「3日間」でした。



(2) 1回あたりの受入れ人数と学年

18グループのうち、半数近くが「3名」または「4名」でした。「1名」はいずれも夏休みにおける保育所での受入れでした。その夏休みの受入れに「中学1年生」が見られましたが、他は全て「中学2年生」でした。



2 事前学習の状況ならびに事前に施設へ提供された情報

「生徒の体験先選定理由や目的」を学校側から情報提供を受けている施設は半数以下で、「事前学習の内容や状況」も提供を受けている施設は2割にとどまります。このことから、特にこの2つは受入れ時に生徒本人から改めて確認しておくことが必要な情報といえます。

表1 学校から施設へ提供された情報

	提供のあった割合
1 参加する生徒の名前や性別	100.0%
2 学校側のねらい、依頼事項	58.3%
3 生徒の体験先選定理由や目的	33.3%
4 事故やトラブル発生時の対応	25.0%
5 事前学習の内容や状況	16.6%
6 事後学習の内容や報告会の予定	8.3%

n=12施設 ※無回答の1施設を除く

	高齢 n=4	保育 n=4	障害 n=4
1 参加する生徒の名前や性別	100.0%	100.0%	100.0%
2 学校側のねらい、依頼事項	100.0%	50.0%	25.0%
3 生徒の体験先選定理由や目的	50.0%	50.0%	0.0%
4 事故やトラブル発生時の対応	50.0%	25.0%	0.0%
5 事前学習の内容や状況	0.0%	25.0%	25.0%
6 事後学習の内容や報告会の予定	0.0%	25.0%	0.0%

3 資料例の活用結果から見えてきたポイント

この仕事はどんな仕事だと思いますか？

職場体験前の考え	職場体験後の考え

※考えが異なる場合は両方の欄にそれぞれ記入してください

ポイント1 体験前もどんな仕事か知識として知っているが、体験で自分なりの表現に

中学生は体験前も福祉の仕事を知識として知っているが、体験を通じて見聞きしたことを自分なりの言葉で具体化していた。そこでは、イメージが肯定的に加わったり、単純に捉えていたイメージの幅が広がったり、中学生なりに表現した新しい発見もみられた。

- 例) 「大変だけれど、自分も笑顔になれる仕事」
「関わりを大切に、利用者さんと『新しい思い出』を作る仕事」

この仕事の魅力は何だと思いますか？

職場体験前の考え	職場体験後の考え

※考えが異なる場合は両方の欄にそれぞれ記入してください

ポイント2 体験前の「役に立つ」から体験後は「自分も成長」

中学生が体験前に想像する魅力は「人の役に立てる」ということが多い。一方、体験後には、「自分自身の成長につながる」という記載が増えるとともに、「人と人との関わり」に魅力を感じている。

- 例) 「自分の存在を再確認できる」「斬新になれる」
「人の手でしかできない大切な仕事」「人間らしい仕事」

職員の「プロの姿」を見つけよう！

●あなたが気づいた職員の「プロの姿」	●その理由は何ですか？

職員コメント

ポイント3 「信頼関係づくり」「効率と工夫」「声かけ」がプロの技

中学生が見つけた「プロの姿」は、①利用者一人ひとりとの信頼関係が築けているからできること、②効率的な動きや工夫をしていること、③行動したくなるような言葉など声かけのうまさ。

- 例) 「一人ひとりに合った対応をしている」「効率的に動いている」
「利用者の苦手をなくす工夫をしている」「行動したくなる言葉を使う」

利用者の「強み・パワー」を見つけよう！

●あなたが気づいた利用者の「強み・パワー」	●その理由は何ですか？

職員コメント

ポイント4 「障害の有無に関わらず」「大人でも子どもでも」を発見

体験中に利用者の強み・パワーを探すことで、①「いいところ」を探してみる、②利用者＝単なる受け手と捉えない、③気づきと成長の3つにつながっている。

- 例) 「しっかりと生きようとしている」「優しく気遣いできる」
「人と関わるときの壁がない」「誰とでも仲良くしようとする」

自分の「成長・いいところ」を見つけよう！

●あなたが気づいた自分の「成長・いいところ」	●その理由は何ですか？

職員コメント

ポイント5 得た成長は「コミュニケーション」「視野」「責任感」

体験を通じて得られた成長を自ら文字に可視化し、職員のコメントでその意義を深めることができた。中学生が得た成長は、①コミュニケーションの力が高まった、②偏見がなくなったり視野が広がった、③安全や成長と関わることで責任感を学んだ、の3つ。

- 例) 「自分から話せるようになった」「子どもや障害者を見る目が変わった」
「適当にしてよい仕事でないことがわかった」

4 資料例①体験前後の中学生の考えを把握し比較する資料を使って

期間中に体験した中学生全員が資料例①の2つに実際に書いたもののコピーを提供していただきました。

(1) この仕事はどんな仕事だと思いますか？

中学生は体験前に福祉の仕事を知識として知っているが、体験を通じて見聞きしたことを自分なりの言葉で具体化している。そこでは、イメージが肯定的に加わったり、単純に捉えていたイメージの幅が広がったり、自分なりの新しい発見を中学生なりに表現している。

体験後に中学生が記載した内容は、体験前に書いたものよりいずれも具体的になっています。例えば、体験前に「大変そうだ」と思っていたのが、体験後に「大変だけれど、楽しい」「大変だけれど、自分が笑顔になったりできる仕事」とイメージが肯定的に加わる変化がみられます。

一方、保育所では、体験前には「預かる。遊ぶ」だったのが「遊んだりするだけでなく、子どもが成長する環境をつくる大変な仕事」といったイメージの加わり方もみられました。また、高齢者施設では、例えば、「社会のために尽くしてきた方への恩返しの仕事」という体験前のイメージから体験後には「関わりを大切にして、利用者さんと『新しい思い出』を作っていく仕事」と変わったりもしていました。障害者施設でも、「お世話をする」「助ける」というイメージが「サポートする」「支援する」へと変化したりしました。

「考えが変わるきっかけになった体験や場面」には、実際に職員の動きをみたり、職員に質問をしたり、いろんな職種の方と接することで変わったりしています。

表2 この仕事はどんな仕事だと思いますか？〔職場体験前〕
(主な回答)

- 生活に不自由のある人を手助けする大変な仕事。
- 大変な仕事。汚い。
- きれいなイメージがない。大変。
- 食事や入浴などの介護。リハビリのお手伝い。レクリエーションなど。
- 生活のお手伝い。お部屋の掃除。お話などのコミュニケーションをする。
- 今まで社会のために尽くされてきた方々への恩返しをする仕事。
- 子どもたちと一緒に遊ぶ。ケガがないように見守ったり教えたりする。
- 保護者が仕事で世話できない子ども預かって世話をする。
- 元気いっぱいな子どもと遊んだり給食を食べさせたり、親代わりに子育てする。
- 保育園に入れない子どもいる中、できる限りの子ども預かって世話する。多くの人に頼りにされる。
- 子ども預かる。遊ぶ。
- 子どもの世話をしながら、やっていいことと悪いことを教える。
- 障がいのある人のお世話をしたりする。
- 一人ひとりの気持ちを理解して全体をまとめるのが大変そうだけど人と触れ合うのが楽しそう。
- 障害のある方を介助する仕事。
- 障害者の人生をよりよくする仕事。
- お世話する仕事。

表3 この仕事はどんな仕事だと思いますか？〔職場体験後〕
(主な回答)

- 利用者の方一人ひとりと真剣に向き合っ寄り添っていく仕事。人を笑顔にできる仕事。
- 大変だけど、自分が笑顔になったりさせたりできる。
- においなどなくきれいだった。大変だけど楽しい。
- 介護の方だけでなく作業療法士などさまざまな人がいる。季節感のあるイベントも行っている。
- コミュニケーションすること。楽しんでもらうために工夫する。安心感をあげられる。笑顔で接する。
- 人との関わりを大切にして、利用者さんとの新しい思い出を作っていく仕事。
- 子どもたちのために仕事ができる。子どもたちの成長が見られる。体力がある仕事。
- 子どもの安全を見守る仕事。
- 働いている親からはありがたい場所だと思う。優しく接し、ちゃんと怒っていて、愛情をもってみている。
- 小学校に入る前に気持ちの整理ができるようにする仕事。子どもの創造力や発想力を引き出す仕事。
- 遊んだりするだけでなく、子どもを寝かせたり大変だけど、とてもやりがいのある仕事。
- 忙しくても周りをしっかりと観察する仕事。
- 障がいのある人をサポートする仕事。
- 一人ひとりの対応を変えるのは大変だけど、理解できたときに達成感がある。ちゃんと休憩もとれる。人とふれあうことが楽しく嬉しいことがたくさんある。
- 障害者の人生を充実させる仕事。
- 支えたりする仕事。

表4 この仕事はどんな仕事だと思いますか〔考えが変わるきっかけになった体験や場面〕

- 自分と話しているときに利用者の方がとても笑顔になってくださった。
- 職員が昼礼で利用者一人ひとりについて真剣に考えていた。
- いろんな職種の方と接した。
- 子どもたちが寝ている間も仕事をしていた。
- インタビューしたときに、自分たちが今まで見てきたものとは違う仕事もあるんだと感じた。
- 子どもが食べられないものを頑張って食べられたとき、すごくうれしかった。
- すべて大人がやるのではなく、どうやったらできるかなどをアドバイスするだけだった。
- 一人ひとりへの対応が全く違ったから。
- 実際に職場体験してみて、職員の方などを見ていると、お世話というよりもサポートだと思った。
- （障害者福祉施設の）利用者さんは協力的で集中力も長く、職員さんの負担は思ったり少なかった。
- 気持ちがうまく言えない人やコントロールができない人を職員さんがサポートしていた。
- 利用者に危険がないよう、気を付けていた。

(2) この仕事の魅力は何だと思えますか？

中学生が体験前に福祉の仕事の魅力を想像すると、「人の役に立てる」ということを多くが挙げています。体験後には、「自分自身の成長につながる」ことを挙げる記載が増えています。

(1)の「この仕事はどんな仕事だと思えますか？」では、体験前のイメージや知識が書かれていましたが、(2)の「この仕事の魅力は何だと思えますか？」は体験前に想像したものが書かれています。それが体験後には、実際に経験してみても初めて自分なりに感じることでできたことに変化しています。ここでは、例えば、「自分の存在を再確認できる」「斬新になれる」「自分の世界が広がった」というようなことが挙げられ、視野が広がるなど、自分なりに成長できることを魅力に挙げる記載が増えています。

表5 この仕事の魅力は何だと思えますか？〔職場体験前〕
(主な回答)

- 大変そうだけど、さまざまな人と関われる。
- 困っている人を助け、人の役に立てる。
- 何かをしてお礼をしてもらえ。
- お年寄り喜んでもらえる。元気でいてもらえる。
- 人とのコミュニケーションができる。
- 一人で生活できないお年寄りを助ける。
- 子どもたちのパワーがもらえる。
- 命の大切さ、育児の大切さを知れる。
- 思い出がたくさんできそうな職場。
- 子どもたちの笑顔が見られる。子どもたちの成長を見守る。
- 子どもと遊んだり話したりすることの楽しさ。
- 仕事は大変そうでも、子どもの笑っている姿を見れば、そのつらさも吹き飛ばす。
- 小さい子どもの立場になって考えることが多いのでいつもできないような経験が多くできる。
- 子どもを預かって遊ぶ、楽な仕事。
- 子どもの一人ひとりの個性と向き合い、伸ばしていくお手伝いができるところ。
- 小さい子の可愛いところを毎日見られる。
- 大変なことやつらいことも利用者や仲良くなればなくなるところ。
- よくわからない。
- 助けてほしい人を助けられる達成感。

表6 この仕事の魅力は何だと思えますか？〔職場体験後〕
(主な回答)

- 人の役に立てることを身近に感じられる。
- この職場にいると自然に笑顔が増えたり、人に優しくできる。
- お年寄りだけでなく、いろんな人とコミュニケーションがとれる。
- 「ありがとう」と言ってもらえ。自分に興味を持ってもらえる。握手して「さよなら」を言える。
- 人生の先輩からいろんな話を聞いて、自分の存在を再確認できること。人間らしい仕事。
- 子どもの成長を近くで見られる。
- 機械ではできず、人の手でしかできない大切な仕事。
- 子どもの心情を知ること斬新になれる。子どもの安全を確認することで、自分の身の回りも気になることができるようになる。
- どういう風にしたら子どもは喜んでくれるかなと普段の生活ではあまり考えないことなので、自分の世界が広がった感じがしていいなと思う。
- 個性を伸ばせることが魅力と思ったけれど、のびのびと自由にだけでなく、社会・集団の中で個性をコントロールできるようにしてあげることが仕事のひとつとわかり、人の土台作りに関われるのが魅力。
- 利用者や仲良くなれる。
- 利用者やいろんなことをする。
- 一人よりも集団で仕事をしての達成感。ふれあえる。

表7 この仕事の魅力は何だと思えますか〔考えが変わるきっかけになった体験や場面〕

- 利用者の方にたくさん「ありがとう」と言ってもらえたこと。
- 自分が自然に笑顔になっていると気付いたとき。
- 子どもが昨日やっていたことを今日はやっていたりした。
- インタビューで職員に聞いた。
- インタビューで答えてくれた「成長を間近で見られる」ということが私も感じられた。
- 園児が他の子の者を奪おうとしたときにしっかりとわかるように注意する先生の姿をみて印象が変わった。
- 利用者や握手ができた。

5 資料例②体験期間中の課題を提示し、関心をもって体験にかかわるための資料を使ってみて

期間中、中学生全員に3つの資料例②を使いながら体験してもらい、実際に中学生が書いたもののコピーを提供していただきました。

資料例②では、それぞれ3つを見つけてその理由を書き、それに対して職員がコメントしています。

The image shows three overlapping worksheet templates. Each template has a title, a main heading, a list of three input boxes with arrows pointing to a larger box, and a '職員コメント' (Staff Comment) field at the bottom.

- Top-left template:** Title: 職員の「プロの姿」を見つけよう! (Find the staff's 'pro' attitude!). Main heading: あなたが見つけた職員の「プロの姿」 (The 'pro' attitude you found in the staff). Reason heading: その理由は何ですか? (What is the reason?).
- Middle template:** Title: 利用者の「強み・パワー」を見つけよう! (Find the user's 'strength/power'). Main heading: あなたが見つけた利用者の「強み・パワー」 (The 'strength/power' you found in the user). Reason heading: その理由は何ですか? (What is the reason?).
- Bottom-right template:** Title: 自分の「成長・いいところ」を見つけよう! (Find your 'growth/good points'). Main heading: あなたが見つけたあなたの「成長・いいところ」 (Your 'growth/good points' you found in yourself). Reason heading: その理由は何ですか? (What is the reason?).

(1) 職員の「プロの姿」を見つけよう!

中学生が見つけた「プロの姿」は大きく分けて、①利用者一人ひとりとの信頼関係を築けているからできていること、②効率的な動きや工夫をしていること、③行動したくなるような言葉などの声かけのうまさ、の3つが挙げられている。

体験中に「プロの姿を見つける」という課題があることで、注意して職員の動きを観察し、それを「あなたが見つけた職員のプロの姿」として挙げるとともに、その理由を書いています。中学生が職場体験を通じてみた職員のプロの姿には、「一人ひとりに合った対応をしている」「泣いている子が泣かなくなった」「利用者の言葉がなくても気持ちを察していた」など、利用者との信頼関係に基づく対応している場面が多く取り上げられていました。また、「効率的に動いている」「(利用者の苦手をなくす)工夫をしている」という点にプロの姿を感じたり、「行動したくなるような言葉を使う」といったように声かけのうまさもプロの姿に挙げられています。

また、中学生が見つけたことに対して職員がコメントする書式にすることで、中学生の気づきを肯定したり、深めたりすることができました。

表8 あなたが見つけた職員のプロの姿とその理由（主な回答）

- それぞれの方に合った接し方をしている⇒それぞれを理解していないとできないことだから
- 周りをよく見ている⇒一つのことをやっても常に利用者の方を気にして見ている
- 利用者と目線を合わせる⇒相手が座っていると目線を合わせ、そうすると気持ちが伝わりやすいから
- 利用者の気持ちを言葉がなくても感じ取れる⇒利用者が何を求めているか言葉にしなくても職員が先に動いていたから
- どんなことでも臨機応変に対応⇒落ち着いて行動していたから
- 動きが素早い⇒すごく効率的に動いているから
- 神対応⇒同じことを何回も言っている利用者さんに同じことでも笑顔で言っていた
- 泣いている子のあやし方、喧嘩している子の止め方⇒泣かなくなったり、すごいなと思ったから
- 泣いている子を納得させた⇒何がイヤなのかを聴いてからどうするかを決めていた
- しっかりと叱る姿⇒ダメなことはダメと伝えられているのがかっよかったから
- 子どもの安全を見守り続ける姿⇒遠くで仕事していても素早く注意していた
- 時間を有効に使う⇒世話と別の仕事を両立させていたから
- しっかりとした応答⇒小さい子の話の一つひとつ「すごいね」など答えていた
- 行動したくなる言葉を使う⇒なかなかできなかった子に行動したくなる言葉を話していた
- 寝かせられる⇒寝られない子を職員がトントンとするとすぐに寝ていたから
- 気持ちが高ぶっている利用者さんをなだめる⇒粘り強く接して、一人にしなかった
- 利用者の苦手をなくす⇒1～10の数字を書いた紙で工夫していた
- 周囲を常にみている⇒利用者を落ち着かせるシーンがあった
- 迷っているのを助ける⇒声をかけて助けていた
- その人が食べられるものをわかっている⇒その人が食べられるような形や大きさに細かくしていた

表9 職員のコメント（主な回答）

- お世話するというのではないスタンスの動きを見ていただけたと感じます。
- さまざまな職種のチームワークで業務を行っていることを伝えました。
- 子どもたちが安心できる存在となれるとう、日々の対話を大切にしながら信頼関係を築いたうえで、適切な対応ができています。
- 子どもたちの成長に必要な経験を摘んでしまわないよう、全体を見守り、状況に応じた声かけを行っています。
- とても細かいところに気づいてくれました。一人ひとりの理解が異なるので、全体ではわかりやすい言葉で簡潔に話し、さらに個別に対応しています。
- 安全や子ども同士の様子に注意して見ているのに気づいてもらえてよかったです。
- 「行動したくなるような言葉」という良い点に気づいたと思います。前向きに取り組むことができるためには大切で、子どもが自ら取組めるように手助けするのが保育士の仕事です。
- 子どもにまず必要なのは温かい関わりによる安心感です。
- 相手が困っていること、伝えたいことを受けとめることを日々大切にしています。
- 「〇〇してください」というだけではやる気が出ません。目標を目に見える形にして達成感が得られるような声かけを工夫しています。
- 驚かせてしまいましたね。見たことがないシーンだったと思います。
- よく観察していると思います。

(2) 利用者の「強み・パワー」を見つけよう！

体験中に「利用者の強み・パワー」を見つけようとする事は、①「いいところ」を探すという視点、②利用者＝「受け手」とだけに捉えない視点、③「障害があってもなくても…」といった気づきと成長の視点につながっている。

体験中の利用者との関わりの視点の一つとして、「強み・パワーを見つける」という課題があることで、「できないこと」を探すのではなく、「いいところをたくさん見つけよう」という関わりができると考えられます。利用者の「受け手」という姿に目が行きがちなところを体験を通じて「しっかりと生きようとしている」「子どもなりに柔軟なちからをもっている」「優しい気づきができる」「誰とでもなかよくなれる」といった視点での利用者の捉え方ができています。

また、そうした発見は職員にとっても利用者からの学びにつながり、「障害があってもなくても…」「大人であっても子どもであっても…」という気づきにもなっています。

表 10 あなたが見つけた利用者の強み・パワーとその理由（主な回答）

- 身体が不自由でも自分にできることをしていた⇒エプロンやおしぼりをたたんでいたから
- 今の生活を楽しんでいるように見えた⇒近くの人や職員と話していたから
- しっかりと生きようとしている⇒言葉や行動から感じた
- 間違えてもおちこまない⇒間違えても落ち込まず、とにかく生きていこうとする力が強いと思ったから
- 喧嘩してもすぐに仲直りできる⇒友達とけんかして怒っていたけど、ちょっとしたらすぐに仲直りしていた
- 謝れる⇒ぶつかったときすぐに謝っていた
- 笑顔にしてくれる⇒笑わせてくれた
- 気遣ってくれる⇒「(ケガをしている)お姉さんとも遊びたいから、走らない遊びをしよう」と言ってくれた
- 人と関わるときの壁がない⇒自分自身が(学校で)仲良く話せない人もいるのに、小さい子は強い
- すぐ寝れる⇒私は眠れないのに。いっぱい遊んだから眠れるんだと気付かされた
- 切り替え力⇒休み時間はしっかり休み、作業になると集中していた
- 利用者さん同士で協力⇒わからないことがあったら教えてあげたり、物を取ってあげたりしていた
- コミュニケーション⇒誰とでも仲良くなろうとしていた
- 自分から作業していた⇒もっと動けないと思っていた
- 職人技をもっている⇒思った以上に上手に作業をこなしていた

表 11 職員のコメント（主な回答）

- 「誰かのために」という思いはいくつになってもお持ちです。できることをやっていただくことは機能を維持する方法の一つと考えています。
- 保育所は社会性を身につけることのできる大切な場所です。相手の思いを知りながら少しずつ折り合いがつけられるようになります。
- 幼い子どもたちですが、いつもいる仲間や職員の変化を敏感に察知して、相手を思いやる心が育っています。
- 短い期間にしっかりと子どもたちの行動や思いを発見感じてくれてうれしく思います。
- 子どもは大人よりもずっと柔軟に何事にも対応してくことのできるパワーを持っているので、私たち大人も見習いたいですね。
- 職員も利用者の集中力やコミュニケーション、好奇心から多くのことを学んでいます。障害があってもなくても、すごいものはすごいですね。
- 障害があるということがマイナスのイメージでないことに気づいてくれてうれしです。
- いいところをたくさん見つけられました。障害の有無に関係なく相手のいいところを見つけることが大切ですね。
- 強みを見つけてもらい、よかったです。

(3) 自分の「成長・いいところ」を見つけよう！

体験を通じて得られた成長を自ら可視化し、職員のコメントでその意義を深めることができた。中学生が得た成長には、①コミュニケーションの力が高まった、②偏見がなくなるなど視点や視野が変化した、③安全や成長との関わりから責任感を学んだ、ことなどが挙げられている。

(2)の「利用者の強み・パワー」を見つけるのと同じ視点で自分自身の成長できたことを改めて考えてそれを可視化してもらいました。ここでも、「いいところ」を探すようにしています。

中学生が挙げた成長に「会話の工夫」「自分から話せるようになった」「あいさつできるようになった」といったことが多く挙げられていることから、福祉施設における体験の大きな効果の一つに「コミュニケーションの力が高まる」ということがありそうです。また、「子どもを見る目が変わった」「偏見がなくなった」というように、視点・モノの見方の変化も挙げられています。さらに、利用者の安全や子どもの成長との関わりを通じて、「適当にしてよい仕事でないことがわかった」と気づき、「仕事に対する責任感」も感じる姿もみられました。

表 12 あなたが見つけたあなたの成長・いいところとその理由（主な回答）

- 最後までやりとげた⇒大変だったけれど、責任をもって最後までできたと思う
- 会話の工夫⇒友だちとの会話と違って、いろいろ考えながら会話できた
- 笑顔でいられる⇒気づくと自然に笑顔になれた
- 自分から話せるようになった⇒今までは自分から話すのが苦手だったけど、今回の体験で相手の気持ちを考えて話せるようになった
- 感謝が言えるようになった⇒職員の方、利用者の方にいただいたことにすぐに「ありがとうございます」と言えた
- あいさつができるようになった⇒あいさつから話すきっかけができた
- 時間をみて行動できるようになった⇒これまでにこうしようと時間を考えられるようになった
- 子どもを見る目が変わった⇒仲良くなれた
- 子どもの接し方がわかった⇒体験していくうちにわかった
- わからなことをあいまいにせず、人に聞くようになれた⇒適当にしてはいけない仕事とわかったから
- よく見て学ぶことができるようになった⇒なんでも聞くのではなく周りをよく見て真似したり参考にすることができた
- 小さい子どもの気持ちがわかるようになった⇒いろんな場面で子どもを見られたから
- 偏見がなくなった⇒障がいを持っているからできないのではなく、得意不得意があるということだから
- コミュニケーション能力アップ⇒利用者さんがたくさん話しかけてくれたから
- 利用者に声かけできる⇒最初は怖くて声をかけられなかったけれど、優しい人たちだとわかったから
- 自分にも強いところがある⇒制止することができた

表 13 職員のコメント（主な回答）

- 日常の学校生活から離れ、社会の一員として考えられる時間を過ごせてよかったと思います。
- コミュニケーションのはじまりはあいさつで、きっかけづくりになったことがわかったことはすごい！と思います。
- 初めは戸惑っている様子がうかがえましたが、日を追うごとに自分で気づき、手伝えることはあるかと尋ねてくれたことは大きな成長です。
- 短い期間に自分自身の課題に気づきがあったことは素晴らしいですね。
- 職場体験が大切なことを知る機会になってよかったです。
- 子どもたちのいろんな場面の気持ちに気づいてもらえてよかったです。
- 「はじめは怖かったけれど、優しい人たちだとわかった」と書いてあるのを読んで、とてもうれしく思いました。
- 障害の有無にかかわらず初めての人と話すのは勇気がいりますね。話ができ、仲良くなれてよかったです。
- まっすぐに話しかけてくれて利用者はきっと新しい経験が増えたと思います。

6 資料例を使ったり、中学生に説明するとき、施設で工夫したこと

資料例を活用するにあたっては、実際に使ってみたモニター施設からは、中学生が書きやすいよう記入例などのヒントや必要なことなどが挙げられました。

表 14 施設で工夫したこと（主な回答）

- 事前オリエンテーションを従来行っていた内容から膨らませ、90分ほどかけて行った。その際、法人で介護系学生のインターンシップ向けに作成しているパワーポイントを中学生向けにアレンジして、シートのテーマを意識した説明を行った。使用するシートは、このときに渡し、最終日にはふり返りの時間と質疑を含めて60分ほど設けた。
- 資料例⑥の修了証には参加時の写真も貼り付けて渡した。
- 資料例のシートだけでは、イメージしづらく記入が難しいので、口頭で記入例などを説明した。
- 施設の役割や職種についても説明した。
- もう少し中学生が答えやすいものがあるかなと感じる。
- 「すべて記入しなくてもいいよ」「書ける範囲でいいよ」と言ってあげた。
- 水分を作る時のとろみの付け方や味の体験、車いすの種類や操作の講義を行った。
- 保育士がやりがいのある仕事と認識してもらうために、雑務ではなく、子どもと直接的に関わる機会を多く設けるようにした。
- ふり返りの時間には、反省点を挙げるのではなく、よかった点を多数伝えるようにした。
- 少しわかりづらい用語は、理解できるように説明するようにした。

7 資料例を使ってみた感想

資料例を活用することのメリットには、次のようなことが挙げられました。

- (1)生徒が目的意識をもって体験に参加できる
- (2)施設側も(1)を意識して体験の場を用意できる
- (3)文字にすることで、中学生が考えていることがわかった
- (4)体験前と体験後の双方を文字にすることで、気づきを可視化できる
- (5)施設にとっても、改めて自分たちの実践を見つけなおす機会となった

表 15 資料例を使ってみた感想（主な回答）

- 今までは漠然と「活動の体験」として受入れを行っていたが、資料例①と②を使うことで、目的意識をもって参加してもらうことができ、また、職員もそのような視点をふまえ、意識的にその目的につながる場面を見せたり話すことができた。
- 「利用者の強み・パワーを見つけよう」は、中学生には少し難しかった。
- 参加する中学生もイメージがしやすかった。
- 資料例を使うことによって、具体的な変化や学生の気持ちの変化を読み取ることができた。
- 生徒さんたちの考えや思いがよく伝わってきた。
- 職員と生徒さんそれぞれが自分の仕事や将来のことを考えるきっかけになった。文章にすることで自分の考えの変化にわかりやすく気づくことができる。資料例の活用はよかった。現場で働く私たちにとっても中学生がどのように考えているか、どのように私たちの保育園が第三者に映っているかを知る良い機会になった。
- 体験前と体験後に分かれていたので、受入れ時にわかりやすく説明することができた。
- 資料例②では枠が3つに決められていたが、埋めることが難しそうだったので、3つにこだわらなくてもよさそうだった。
- 全ての体験生が利用者を通じ合うことを仕事の喜びとしていた。それが本当なら、動機や目標として強化したい。